６月号

－Safety News－

きらめき

２０２３年 ６月１６日

発　　行
東北情報インフラユニオン
仙台市若林区新寺一丁目２番７号
TEL：022－297－5196
FAX：022－297－5198
発行責任者: 村上　良智
編集責任者: 齊藤　慎也

全国安全週間（７／１～７／７）

～高める意識と安全行動　築こうみんなのゼロ災職場～

厚生労働省ならびに中央労働災害防止協会は「高める意識と安全行動　築こうみんなのゼロ災職場」をスローガンに、令和５年７月１日～７月７日までの期間において「全国安全週間」を展開し、労働災害を防止するために自主的な活動の推進と職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を図ることとしております。

全産業に見る労働災害については、死亡災害は前年を下回る見込みであるものの、休業４日以上の死傷災害は前年を上回る見込みであり、近年、増加傾向に歯止めがかからない状況となっています。中でも転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害、墜落・転落などの死亡災害が依然として後を絶たない状況にあります。このような状況下において労働災害を減少させるためには、事業者・労働者双方が基本ルールを徹底するとともに、基本ルールを遵守・実行するための時間的・人員的に余裕を持った業務体制を構築することが重要となってきます。

＜業種横断的な労働災害＞

業種横断的な労働災害として挙げられる熱中症については今後より一層、発生リスクが高まることから、「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」として７月を重点取組期間とし、熱中症予防対策や発症時・緊急時の措置等に関する周知・啓発に取り組むこととしております。次頁に熱中症予防のためのチェックシートを掲載しておりますので、職場での対策状況の点検にご活用下さい。

終わりに、組合員および現場第一線で働く労働者の心と体の健康管理は基より、リフレッシュを図り安全労働を確保する観点で取り組みを行っている通建連合「一斉安全休工日」の 2023 年度第２回目を７月に設定しております。安全労働を確保するためにも、取り組みへのご協力をお願い致します。

通建連合「一斉安全休工日」への積極的な参加を！

２０２３年度 第２回の実施日は

７月８日（土）

～中災防「STOP！熱中症」リーフレットより～

職場の熱中症予防のためのチェックシート

あなたの職場の対策は万全か、点検してみましょう！

□ ①暑さ指数(WBGT)を把握していますか	→ WBGT基準値を大幅に超える場所で作業を行わせる場合は、単独作業を控え、休憩時間を長めに設定しましょう。
□ ②休憩場所は整備していますか	→ 涼しい休憩場所を設け、身体を適度に冷やすことのできる物や設備(氷、おしぼり、シャワー等)なども備えましょう。
□ ③緊急時に搬送を行う病院を把握していますか	→ 近隣の病院、診療所の情報を把握した上で、救急処置の手順を関係者に周知しましょう。
□ ④熱に慣れ、環境に適応するため、暑熱順化の期間を設けていますか	→ 労働者が暑さに慣れていない・適応していない場合は、7日以上かけて高温多湿の環境での作業時間を次第に長くしていきましょう。
□ ⑤自覚症状の有無にかかわらず、労働者に水分・塩分を摂取させていますか	→ 水分や塩分の摂取を確認する表を作るなどして摂取状況を確認し、徹底を図りましょう。
□ ⑥労働者に、透湿性・通気性のよい服や帽子を着用させていますか	→ クールジャケット、日よけ用の帽子、冷却グッズなどを活用しましょう。
□ ⑦睡眠不足・体調不良など労働者の健康状態に配慮していますか	→ 朝礼などの際に、労働者の体調を確認し熱中症の発症に影響を与えるおそれがあるかを確認しましょう。 また、作業中も健康状態に留意しましょう。
□ ⑧熱中症を予防するための労働衛生教育を行っていますか	→ 作業管理者や労働者に対し、熱中症の症状や予防方法、緊急時の救急処置等について教育を行いましょう。
□ ⑨身体を冷却できるアイススラリー(流動性の氷状飲料)などを準備していますか	→ 体温上昇を抑えるため、アイススラリーなどを作業開始前や休憩時間中に摂取してプレクーリングを行いましょう。

昨年 1 年間の全国の職場における熱中症の発生状況を見ると、死亡を含む休業４日以上の死傷者は805 人（うち死亡者 28 人）となっており、業種別の死傷者数については建設業 172 件、製造業 144 件と全体の約４割が２つの業種で発生しています。

また、死亡者数は建設業、警備業の順に多く、暑さ指数（WBGT）を把握せず、熱中症予防のための教育をしていない、または熱中症発症時・緊急時の措置が適切になされていなかったことが原因として挙げられています。

<u>※暑さ指数（WBGT）とは</u>

暑さ指数（WBGT）は気温・湿度・風速・輻射熱を考慮した暑熱環境によるストレス評価を行うための指数です。単位は気温と同じ摂氏度（℃）ですが、その値は気温とは異なります。熱中症予防対策の指標として、暑さ指数（WBGT）を確認し、熱中症予防管理者等による職場巡視や水分・塩分の摂取、必要に応じて作業時間を短縮する等の適切な対策を講じましょう。